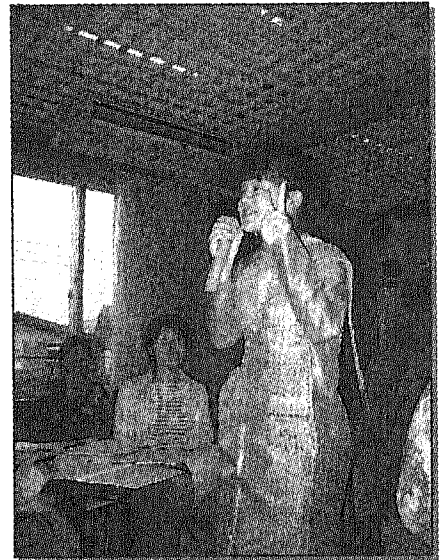


## (1) JICA TIME「気づく」

## ◆ 静岡県JICA国際協力推進員 甲斐尚子さんから

- JICA中部の開発教育支援事業のメニューから、JICA国際協力出前講座、エッセイコンテスト、実体験プログラム、教師対象講座、フォトランゲージキットなどの紹介と、各県の国際協力推進員の活動を紹介する。



甲斐さんの発表 ▶

## (2) 考えるための準備体操と研修のねらいの確認

## ◆ 考えるための準備体操

- 2日目の朝からのワークショップであるので、「考える練習をしよう」という子ども向け本のアクティビティをする。
- 次の実際に今見たり聴いたり味わったりしていない事象について、自分の頭の中で感覚を呼び起こしてみる。

- 1) ピンポン球がフローリングに落ちる音
- 2) ピンポン球が畳の上に落ちる音
- 3) ふわふわの生まれてたての子猫をさわった感触
- 4) 朝起きて、台所からの焼けたてのトーストのにおい
- 5) ピーナッツバターをぬってかじった味
- 6) ピーナッツバターがちょっと残っている先にオレンジマーマレードの味
- 7) 学校の途中の子どもたちの歓声

- 今やったことに対する自分の反応や感覚をふりかえる。鮮明にそれらの感覚は思い描けたか？
- 続いて、体を動かす。2人ペアとなって、ストレッチと肩たたきを行う。

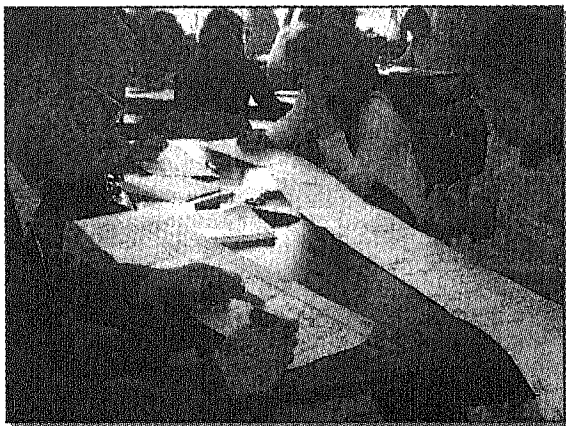
## ◆ ねらいの確認

- 改めて全体のねらいを確認するとともに、レジユメの「What's 国際理解教育？」を読み上げ、国際理解教育の基本的考えを伝える。
- 続けて、レジユメを見ながら、第1回研修の4つのねらいを改めて確認する。

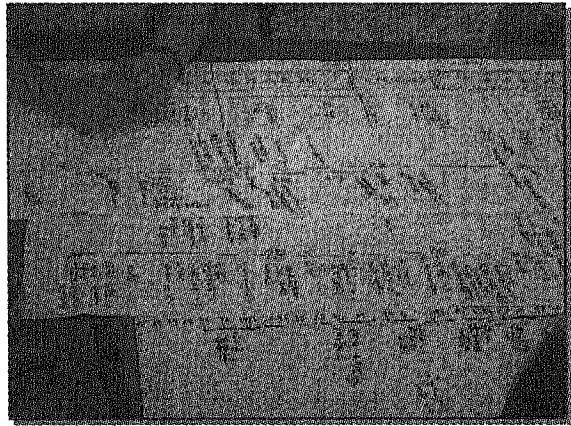
### (3) 年表づくり 社会と教育と自分を振り返る

#### ◆ 個人で年表づくり

- 自分の年齢分の用紙（10年刻みの短冊）に「教育の移り変わり」「社会の移り変わり」年表をつくる。
- 社会の移り変わり＝時代の時々になんかことが起こってきたか／事件や様々な事柄、どんなことが話題になっていたか、日本・世界／自分自身がどんな風に暮らしていたか・流行っていたテレビ番組など。
- 教育の移り変わり＝教育の傾向、学校の様子、給食の状況、学校以外の場所での教育（塾やおけいこごとなど）／親のしつけ、教育方針はどうだったか？／自分が子どもたちにしてきた教育方針でもよい
- 自分が生まれてから現在まで、思い出せるだけ思い出して書き出す。楽しみながら。2、3年の誤差は構わない。その年代の自分の年齢を思い出すといろいろなことが思い出される。



▲ まず個人で年表をつくる



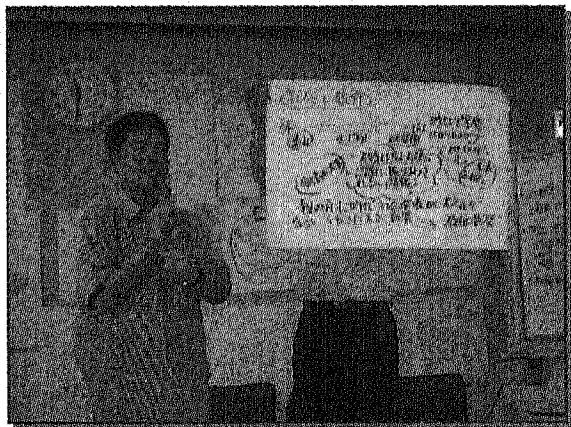
▲ 作成した年表の例

#### ◆ 5～6人グループになり年表の共有（グループの年表まとめを作る）

- 長さの異なる人（年代の違う人）どうして、ジェンダーバランスを考えて5～6人グループをつくる。
- 大きな模造紙を縦にして、年表を長い順に上から右を合わせて貼る。右端＝今日になるようにそれぞれの年表をそろえて全員分を模造紙に貼る（左の長さは年齢によって違う）。
- 年表の長い人から順に、2～3分で自分の年表を説明する。
- 全員の年表を合わせてそれぞれの説明を聞いてみて…社会や教育についてわかったこと、いえることはどんなこと？、を模造紙にまとめる。

#### ◆ わかったことを全体で発表

- グループごとに、年表を通じて社会や教育についてわかったことを発表する。



▲ わかったことを全体で発表

- 親の育った時代、社会環境、考え方が、家庭・子育てに大きく影響＝教育に影響。
- 教育には「愛情が大事」という本質は変わらないが、話題（情報）に振り回されている感がある。
- 60年くらい前の日本は今の開発途上国と似ていた。
- 個人によって時代認識が少しずつ違う。
- 80年代以降から、先進国が本当に豊かなのか？ということが観点は違うがどの人の年表にも現れていた。
- どの年表にも必ず文化と戦争のことが載っている。
- 社会が学校に教育を預けている（地域・家庭・学校の教育のバランスがとれていない）。
- 転勤によって仲間に入れない日本社会（異なるものを排除しようとする）。
- 社会全体で横や縦のつながりが薄れてきたので、学校に生活科や総合学習が取り入れられたが、そのねらい達成のためには十分に機能していない。
- 子どもの社会でおけいこ事にしめる割合が大きくなり、仲間づくりが下手になってきているのではないか。
- バブルがきっかけ、社会が豊かになって、家庭のつながりや心の豊かさを失っている。
- 社会がだんだん大人中心で回っている。こどもの生活時間を大人にあわせさせている。
- ベビーブームで生徒増加→画一的な教育。
- 消費社会・物欲主義の横行・情報化社会は、多様なライフスタイルにしたけれど、よりどころはというといまいち不明確で無責任。
- 経済の成長・安定期には学力至上主義をみんなで信じていた（高学歴＝よい生活ができる）。経済の低迷期に入って勉強・進学の一極集中が少なくなった＝教育は経済に影響される。
- 中教審「期待される人間像」＝産業界が望む人間を作るための教育の功罪が10年～15年遅れて現在の課題として現れた。
- 「何のために学ぶのか」という問題意識が高校生、大学生の中に生まれてきた。

#### (4) 未来を考える20年後の未来～地域・地球はどうなっているといいのか？

##### ◆ フューチャーサーチ（未来を探ろう！）

- 年表で過去を共有したあとは、未来を描いてみる。
- 20年後の地域社会・地球社会はどうであるといいのか？ グループで合意できるところを模造紙にまとめる。
- 何が実現されているといい？／何が解決されているといい？／社会にはどんな物、事が確保されているといい？という視点で。
- まとめたものを、ギャラリー方式で共有する。



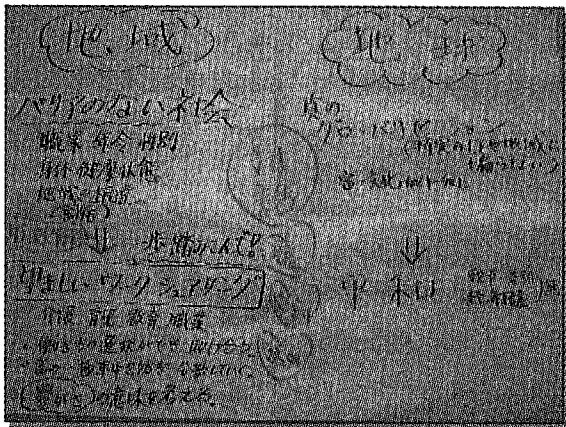
▲ キャプション

＜20年後の「地域」の未来像＞

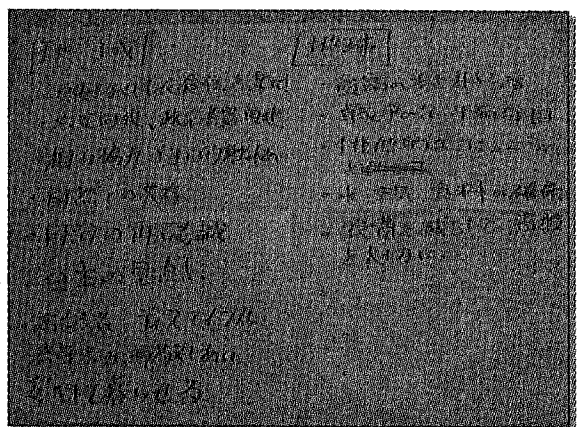
負債がなくなり衣食住が楽に／治安回復・政治基盤再建／相互協力・自主的ふれあい創出／自然との共存／自治の再認識／日本の見直し／高齢者・ディスエイブル／在日外国人のこどもたちへの教育充実／人間開発・人材育成／20人学級実現／教員の半分は社会経験のある人／選べる教育／休みがたくさん／手仕事（昔ながらの職人技術）が見直されている／快適な空間やゆとりの確保／消費社会が終わり循環型へ／個々が生き甲斐を持って生きられる／子どもの教育についての共通基盤を持つ社会／環境・医療・雇用・こども・福祉への関心高まる／地域の教育力の復活／社会生活と家庭生活のバランスがとれ充実／死生観が変化し、よりよく選択的になる／学校の中だけではなく、学校・家庭・地域で連携して教育が進められる／伝統行事の復活／地域の中で集まれる場所がある／環境教育が広がる

＜20年後の「地球」の未来像＞

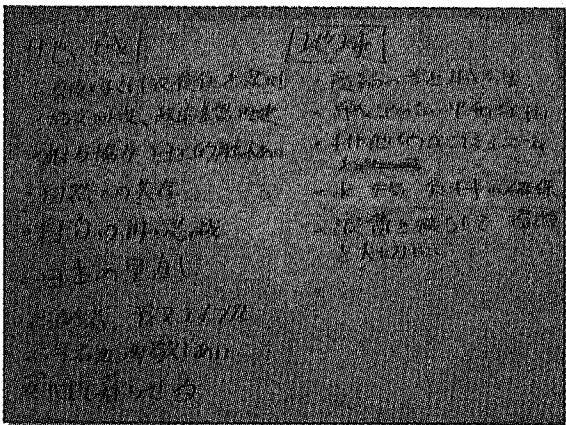
貧富の差が縮まる／戦争が解決され平和／水・空気・食糧を平等に確保／浪費が減り資源の維持／一人一人が大切にされる／青い海・緑の森／特定の国や地域に富が偏らない、経済的にも文化的にも対等なグローバリゼーション／差別がない／国同士の連帯が進む／環境負荷が小さくなる／競争から協力へ・消費から環境重視へ／経済交流から人の交流へ／日本人へのイメージが向上



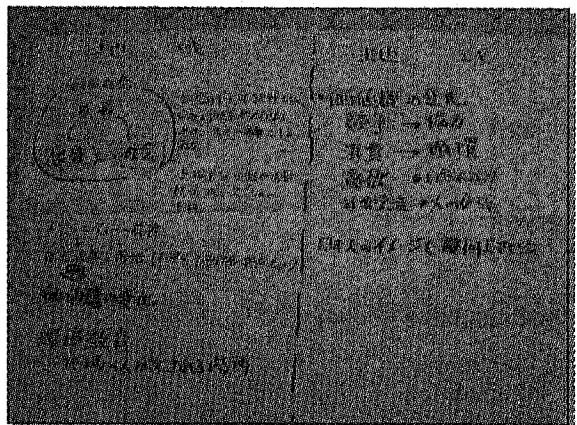
▲まとめられた横造紙①



▲まとめられた横造紙③



▲まとめられた横造紙②



▲まとめられた横造紙④

**(5) 20年後の望む未来を実現するために大切だと思うこと！****◆ 参加者のふりかえりシートより**

- 最後に、自分たちでイメージした20年後の未来像を実現するために大切だと思うことを、各自で、ふりかえりシートに記入し、1回目の研修を終える。

- 自分の欲を追求することでまわりの自然や人を傷つけるのではなく、問題を自分のこととしてとらえること。生き物は自然に生かされているのだから。
- マイナスの行動からプラスの結果は生まれ難いのでマイナスの行動にはNO!を。NO WAR!
- こどもが自分の将来を自分で考えられる情報提供と選択しがあること。
- 各自が起きている問題や現状について関心を持ち、意識化する。
- 自分のやりたい仕事を楽しくできるということ 夢を持つこと。
- 変化はより多くの人々の心のあり方でおこる →意識の変化からスタート。
- 価値観の変化(経済システム/生活スタイル/人の心の持ちよう/労働環境/教育環境/死生観など)。
- 協力 助け合い 循環型 思いやり 地域社会の復活 共に学ぶ、などのキーワード。
- 相手の立場を理解する力 自分の意見も明確に伝える力 互いの個を尊重しあう力。
- コミュニケーション(自分を表現する/聴く)/共有/尊重/協力/尊敬。
- 自分を大切に、他者を大切にすること。それぞれのよさを認める「みんな違ってみんないい！」
- 自分の人生1回しかないと学べる機会を持つこと。
- 地域社会全体が子どもに目を向けること。
- 共に過ごせる場があること(高齢者、子ども、障害者など誰でも)。
- 健康に生きること。
- 人と人との交流を通し、つながり、信頼関係を築く。
- 平和、安全、安心、安定の共有化。
- 物質的な豊かさを求めるのではなく、目に見えない心の豊かさを大切に思える教育の充実。
- 多様な人が心地よく生きられ、自分を愛し他者を愛せるようにコミュニケーションを通して相互理解を進めること → 多様な価値観、属性の違いを認めあえるようになること。
- 自分で選択できる得意分野で助け合えるワークシェアリングを進める。
- 「知ろう！」とする気持ち。心をひらくこと。
- 正確な情報に基づいた問題点の分析。
- 多角的な視点・地球的な視点を持つ —ステレオタイプに左右されないニュートラルな観点。
- 本当の豊かさをおとながもう一度考え意識して生活する。
- 多様なものに関心を持ち対話をする。好奇心と知る努力。
- 忙しく暮らさない。精神的物質的にひとりひとりがゆとりを持てるということ。
- 教育者が教育現場だけではない社会経験を積むということ。
- コミュニティーの復活。個からつながりのある協同体へ。
- 地域—家庭—学校が連携をとり、協力しあい、「人が育つ」社会をめざす →地球全体で子どもとおとなが育つ。
- ひとりではがんばらない。あせらずふりかえること。
- 共に生きていくためには心のふれあいが大切であることを理解すること。
- 人、物のつながりを地域の中で循環していくんだ!という心意気とそれができる環境整備。
- ダメなものはダメを言える勇気と正義感。
- 人の手から物が作られるプロセスを見ることができ環境整備。
- 楽しみながら技術を分かち合う。
- 世界にでる。
- 若い人をかわいがり、お年寄りをつなぐ。

## 第1回ふりかえりシート

第1回の研修を終わったあと、参加者に書いてもらった「ふりかえりシート」結果を示します。ふりかえった項目（掲載分のみ）は次のとおりです。

文章を完成させる形で、研修をふりかえってみてください

- 1 わたしが気づいたことは…
- 2 わたしが大切だと思ったことは…
- 3 わたしが嬉しかったことは…
- 4 わたしががっかりしたことは…
- 5 わたしがこれから実行しようと思ったことは…

### (1) 気づいたこと

「わたしが気づいたことは…」という文章には、具体的には次のように書いています。

#### ◆ 具体的回答

- 人と人とのつながり。
- みんな話したいこと、話すべきことがある。
- 名前やタイトルを除いた一人ひとりのコミュニケーションの楽しさ。
- 共通の興味・関心のある人達が集まった研修は充実する。
- 自分が学ぶということは、今までしてこなかったわけではないが、みんなで一緒にあまり知らなかったことを学んで楽しかったこと。
- 私自身、気がついていないことが多い。
- コミュニケーションは大切だけど難しい。色んな経験や属性が、表現をかたくなにしている。
- あきらめないで行動すること。やりたいと思っている人が多い。
- 現場で技術移転を行って来たが、それを「伝える」ことは考えてもみななかった。
- 子どもに対しては、エンカウンターを行い、自己理解相互理解を勧めているのに自分自身はまだまだだったことです。
- 外に出て行くことで情報を収集し自分のスキルアップにつながることの大切さ。
- このセミナーの参加メンバーは濃く深い！？
- 「何か」をしようとする時、様々な人々との連がり、ネットワークがいかに大切か再認識しました。
- 皆さん海外経験（特に協力隊経験）がある方が多いこと。
- これからの自分。
- 共同作業をすることでグループの方と打ちとけました。
- みなさん、積極的でやりやすかった。楽しくできました。
- 人を理解すること、自分を理解することが自己向上、相互向上につながっていくこと。
- 以外に自分自身の事をわかっているように思っていたか？わかっているいなあと思った事。同じ課題でも視点が違ったり、色々な考え方があり、そこには新しい発見だった。
- ”知りたい” ”伝えよう” という気持ちがコミュニケーションの基本。コミュニケーション力は訓練で向上する。
- すばらしい人たちがたくさんいるということ。自分には、まだまだ、学ぶべきこと、やるべきことがたくさんあること。



- コミュニケーションとは、自分の事がある程度語れるようになれば安心。
- 一つのテーマを与えてくれると、それまでコミュニケーションをとろうとしなかった人達だったが、とても活気あるコミュニケーション活動ができるんだなと思いました。
- コミュニケーションは相手を知ろうとすることだけではなく、自分自身のことも知ることであるということ。
- 自分の思っている自分と、人の思う自分のちがひ。
- 自分のことを伝えるのってむずかしいということ
- 地域（国籍や県）、男女、年齢、職業を問わず国際理解に関心のある仲間が集まって有意義な workshop が出来たこと。
- 自分の売り、自分のPR をすることのむずかしさ。
- 自己分析、問題分析、目的分析も、こんなやり方で行うと、誰でも取り組めて、参加しやすくなるということです。素晴らしかったです。
- 相手とコミュニケーションをとり、本当にわかりあうのはむずかしい！ということです。グループワークはそれぞれの良さも生かして楽しい、ということです。
- 開発教育・国際理解教育に対して積極的に取り組もうとする人たちの気迫には驚きました。いい研修ができそうだと確信しました。
- 相手から発せられるメッセージを、聞く方(側) が都合よく選んでいるのでは？とどなたかが言った事にハッとしました。
- 対人コミュニケーションの重要性と地域社会の再生の必要性。
- 東海地区にも元気な、そして元気になろうとしている方がたくさんいることです。
- プロセスが大切だと言うこと、時々、くい違った意見だと心の窓を閉ざしそうになる自分。
- ①自分と向き合う、自分を見つめる、ということはとても苦しく大変なエネルギーの要る作業だということ。②しかし、その作業をせずに自分を知る（理解する？）ことはできないということ。③自分のことを解らずに、相手(他人) のことを理解することはできないということ。④私自身は自分のことを全然解っていないということ。⑤今まで一度も、自分と向き合う（自分の過去を見つめる？）という作業を本気でできなかった（しようとしなかった？）ということ。
- 「コミュニケーション」とは、言葉を発することによってのみ成り立つものではないし、喜びや楽しみ等、プラス要素を分かち合うためだけのものでもない、ということ。
- 自分のことを知っているようで、アピールするとなると 10 項目出すむずかしさに気づきました。レベルの高い人の集まりでしかも、勉強した方向が同じであるから楽しかった。

## (2) 大切だと思ったこと

「わたしが大切だと思ったことは…」という文章には、具体的には次のように書いています。

### ◆ 具体的回答

- 心を開くこと。
- きちんと聴くこと
- 一人ひとりの思い。
- いろいろな刺激の機会が欲しい。
- いつでも新しいことに挑戦することは、大切だと思った。
- 気がついていなかったことを多くの人とコミュニケーションをとる中で気付くことができる。
- 「伝える。聞く。考える。」コミュニケーションを充実させること。周りの人にコミュニケーションの充実を伝播させていくこと。
- ふれ合い、やわらかい頭。

- 学ぶこと。
- 自分の殻をとり除いて、ありのままの自分を受けとめ、伝えていくこと、まわりの人の思いを受けとめていくことです。望む姿を考え、そのためにできることを考えていくことです。
- 伝える、きく、考えること。
- 対話（ダイアローグやディスロースの意味です）を続けること。
- 知り合う事ができた人々と、いかにつながりを続けていけるか。
- 職業や地位を知らずに人と話しをしてみると、色々なことがきけるので、その人本来のことが分かったと思いました。社会的地位にこだわらないことは大切ですね。
- 一方的に教えるのではなく、自分で考えることです。
- 多くの人が様々な意見を持ち、それを集約して、みんなの認識を共通理解へと高める。
- コミュニケーションでは、自分を伝えたい、人を知りたいという気持ち以上に相手が伝えたいことを知ろうと努めることを大切にしなければと思った。
- 聞くことの大切さ、固定観念にとらわれないように柔軟に考えること。
- 地球的視野をもつことが大切。
- ゆっくりでもいいからチャレンジしていく気持ち・周囲の人々とのコミュニケーション。
- 初対面の方とは、何でもいから話してみることに。
- 人と人と知りあう（理解）するには、まず、自分の事を理解することが大切だと思いました。
- コミュニケーションは聞くばかり、自分のことを話すばかりではなく、その両方をバランスよく使い分けことが大切だと思った。
- 理解しあうこと。
- 相手の伝えたいことをよく聞くこと。
- 所長さんはじめ JICA 職員の方も 1 member として参加して下さったこと。
- このワークショップへの自分の取り組みを再確認し、積極的に取り組むこと。
- 子育て、あたたかい家庭作り、きちっとした仕事、ひとつひとつ身近なことをしっかりこなしていくことです。できることの積み上げが、明るい未来につながると思いました。
- 相手にも思い考えを十分に伝えてもらうことです。本当に対等に話し合える場をつくることができないとグループの誰かもしくは数人の意見にまとめられてしまいます。
- コミュニケーションが本当に大切であることをあらためて知りました。特に、人の話や行動をしっかり聞き、観察することが大切だと思います。
- 思ったことは言う。
- いろいろな立場・年代の人が集い話し合うことにより視野を拓けること。
- 順序立てて自分の思っていることを他人に説明すること。
- 人の意見を聴き、自分の中で糧にすること。
- ①ありのままの（現実の？）自分を受け入れること。②そしてそれを認める（否定しない？）こと。③自分と違ったいろいろな存在や意見などを受け入れられる（他を尊重する？）心。④思いやりの心。⑤大切だと思ったことを日々心がけること。その日々の積み重ね。
- 初対面の印象やわずか数十分の会話だけで、自分の中で相手の人間像を確立してしまわないこと。『私は〇〇です』という文章を 10 個考えてお互いを知り合う』というワークショップで、相手の人が、本来の私とはかけ離れた私像をイメージしたことに、非常に驚いた。それは、自分でも気付いていなかった『私』を認識するいい機会であったと同時に、相手も誤って捉えてしまう危険性もあることを常に意識に留めておくべきだ、ということも再確認させてくれた。
- ここに集まった人たちの出会いを大切に、今後につなぐ気持ちが大変だと思いました。（人と人の輪、和、話）コミュニケーションの大切さをあらためて知りました。新しい方法の講義でありいろいろな人の意見・考えを受け入れる心を持ちたいと思う。



### (3) 嬉しかったこと

「わたしが嬉しかったことは…」という文章には、具体的には次のように書いています。

#### ◆ 具体的回答

- 新しい発見のあったとき。
- いろんなすてきな人に会えた。
- 自分のことを振り返り他の人に関心を持た。
- 知っている人に会えた（同志）。
- 同じ気持ちを持っている人がたくさんいてここで出会えたこと。
- 昨年度の研修会よりも、メンバーの雰囲気がやわらかい。教職員以外のメンバーが1/3というせいかな。
- たくさんの出会いがあったこと。
- 色々な価値観を持った人と出会えた。充実したコミュニケーションを通じて、喜べ、自分に出会えた。
- 仲間が増えた。いろいろ吸収できた。
- 様々な人と知り合い、様々な考えを聞いた。
- 自分の望む姿を、相手に理解してもらえたことです。
- 様々な人との出会いと気づきがあったこと。
- 同じテーマでもワークショップ毎に学びが違っていると再発見したこと。
- 多多。
- 自分のことを見るきっかけができたこと。また、それについて他の人が良く評価してくれたこと。
- いろいろな人に会えたこと。
- 私の意見をグループの人々が良いと言ってくれた時です。
- 多くの人と話しができました。
- 自分と同じような思いをもって努力している人が沢山いることを知ったこと。
- 皆さんと親しく接することが出来たこと。色々な意見が聞けたこと。
- こんな社会をつくりたいからこんな教育をしたいという発想の転換が衝撃的でした。
- 意義深い時間を過ごせたこと。恩師と志が同じと知ったこと
- 年齢的なギャップがあるかも知れないと思っていたが、ほとんど感じなかったのが嬉しかった。
- たくさんの人と出会えたこと。
- どのようにコミュニケーションをとればいいのか、自分1人では考えもしなかった方法をいろいろ知ることができたこと。たくさんの人と話げできたこと。とても楽しかったです。
- たくさんの人に出会えたこと。
- 自分のいいところをほめてもらったこと。
- 山中先生はすばらしい。磯貝さんがコンタクトして下さいたそうでありがたく思います。参加者の質が高い。皆さん友好的で協力的。良いメンバーに恵まれうれしかったです。
- 参加者との出会い。日々業務に追われがちで、他の職場のスタッフとの出会いが少ない中、お互いに相談できる他県のスタッフとの出会いは私にとって本当に貴重です。
- JICAの方や協力隊OBの方、教職員の方とお知り合いになれたことです。
- いろいろな人と知りあいになれたこと「学び合い」ができたこと・たくさんの仲間がいると思えたこと。情報交換ができたことです。
- 年令差・職業など関係なしにコミュニケーションができることが嬉しく思いました。たいへん勉強になりました。
- 興味、感心と同じくする人がたくさんいたこと。我々がもっと増やしてゆきたい。
- 参加者のほとんどが積極的で前向きであったこと。参加者に外国人も含まれていたこと。

- たくさん話し、たくさん人の話を聞いて、たくさん考えたことです。
- 色々な人と出会えたこと。面白かった。
- ①この研修に参加できたこと。②普段生活する中では気づけなかった(うすうすは気づいていたかも?)、幾つかのことに気づいたこと。③普段あまり接する機会のない人々と接する(話をする)ことができたこと。
- また新たに、未知の人たちと知り合いになれたこと。
- 人の心を大切にしたい。年齢が多いとか若いとか先生とか受講生のバリエーションがなく、みんながフラットな気持ちで自分の考えを自由に言えたこと。今回の受講生の中で私が最高齢であったと思いますが学生時代にもどったように話し合い自分の考えを確かめ若い人の考えのすばらしさを知った。

#### (4) がっかりしたこと

「わたしががっかりしたことは…」という文章には、具体的には次のように書いています。なお、「ない」という回答は割愛しました。

##### ◆ 具体的回答

- 自分の力不足。
- やっぱり中部JICAは遠い、不便
- 自分でできることは限られているということ。
- 常に「生徒に提供するには」という意識が働いてしまうので、山中氏の言動や指導の流れなどをメモしたいと思うが、それをすると参加がおろそかになりそうで、とりあえずは、今日参加を優先した。しかし、後で思い出してまとめようと思っても、きっと今日、明日はできず、記憶が薄れてしまいそうで、もったいない。せめて、板書(参加者からの発表は、私にとっては必要ないが、指導の流れ、ポイント等)のコピーを後からでもいただけたらうれしい。
- informalな場でも、もっと長くいろんな人と話せばよかった。
- 話しができなかった人がいる。経験不足もあって、スキルが十分身につけていないと思われる。
- 自分のキャラが…。
- グループワークの中での共通理解が十分つくれなかったと私は感じたし、メンバーの中にも、やや消化不良の感じがあったことです。
- お話した人が限られてしまったこと(次回以降はもう少し多くの人と語りたい)。
- 遠かった
- 隊員OB・OGは直接この研修を活かせる場は少ないでしょうかね。
- 現実社会を理想的に変えることの難しさ(現実)を改めて感じたこと。
- トイレが1階と3階しかなかったこと。
- 自分がまだ何もできていないこと。
- 家に帰ったら、けっこう冷たい視線で“おかえり”と言われたこと。
- 若い男性の方とは比較的話しやすかったが、それ以上の年齢の男性の方とは、やや会話が行き詰まった。
- 小・中・高・大学生のとき、世界のうごきについて無関心だったこと。
- 自分が人の意見をしっかり聞かず自分の言いたいことを押しつけてしまう傾向があること。
- 民間会社、企業の中で国際交流に関わっておられる方がもっと居られてもよかったかなとも思います。
- ワークショップの中で、自分の位置を確かめられずに、あまり発言できないまま、進んでしまったこと。
- NGOからの参加者が少なかったことです。ボーイスカウトの指導者や町内会の指導者も参加すると良いと思いました。
- もっといろんな人と情報交換したいと思いました。残念ながら時間に制約があり、少々心残りを感しました。でもまだ、2回チャンスはありますから。

- 国際理解との関連性がいまひとつ見えづらかったこと。
- 自分のPRが得意ではありません。でも、徐々に上手くなります。
- 時々、みんなから離れてしまいたいと思ったこと。みんな熱い意見を持っているので…。
- 「社会と教育と自分を振り返る」のセッションの手法。自分の年齢が分かってしまうようなやり方には、抵抗を感じる人が多いのでは？
- がっかりした事はありませんでした。1つの課題でももっともって深めて十分に話し合いたかったと思いますが、今日のような問題はいつまで話し合っても答えの出るものではないと思いますが時間切れで急いでしまった感がありました。

## (5) 実行しようと思うこと

「わたしがこれから実行しようと思ったことは…」という文章には、具体的には次のように書いています。

### ◆ 具体的回答

- ゆっくり、ゆったり、スローペース。
- 本業を充実させる。
- 自分の考えを一層努力し持つこと。
- 少しでも、自分の学校で役立てたい。
- 学校職員にワークショップを実施すること
- 身近な人に、まず私が気付いたことを知ってもらう。
- 周りの人とまず充実したコミュニケーションを行う。もっともっと開発教育を勉強・実践していく。
- 出来ることから1つ1つ逃さずやる。
- 勉強。
- 自己理解、相互理解、共通理解を深めるために努力したいと思います。
- 浪費を減らしたい。
- 懲りずにワークショップを継続して提供すること。
- とりあえず第2回に参加すること。
- 「伝える 聞く 考える」を頑張ります。
- いろいろ活動していこう
- 勉強が足りないと感じたので、次回までに少しでも勉強してこようと思います。
- 協力隊OB/OG会・およびJICA国際協力出前講座がんばりますよ。
- あきらめないで（少しずつでも伝わっていくことを信じて）頑張っていこうと思った
- 聞き上手になること。
- 早く正教員になり、国際理解教育を実行していきたい！
- こつこつやる！自ら学ぶ！ネットワークを大切に！（小さなインパクトの積み重ね）
- 初心者としては、今回行った「伝えたい10の私」他己紹介を地域のグループで、お互いをより良く知る為の方法として活用してみたいと思った。
- たとえ、知り合い同士でも、知らないことは沢山あります。本当のコミュニケーションを、自分とまわりの人ともう一度見つめ直したい。また、子どもたち同士にも、本当のコミュニケーションを体験させたい。
- 今回知ったコミュニケーションの方法を、もう少しやさしくして、子どもたちのコミュニケーションに使ってみたいと思った。
- 自分のことも他人のことも理解するよう心がける。
- 相手の話をよく聞くこと。

- 頑張って参加しようと思います。
- このワークショップを受講した後、この講座を生かし、今年度の国際理解講座への参考としたい。
- 日々の生活を大切に、知り合えた人々のために、自分を生かし、他人を生かせるよう、自分のできることをせいっぱい実践します。
- 夏にある先生方への研修で一部アクティビティを行ってみようと思います。
- 本校での総合的な学習の時間に、開発教育・国際理解教育を導入したいと考えております。
- 相手から自分が受け取ったメッセージが、本当に相手が伝えたいと思っていたことなのか確かめよう。
- 国際的な理解を促進するための活動をする。
- 国際理解教育を積極的に実践する人および応援する人を増やしていくことです。
- 相互理解と傾聴（全てにおいて）。
- ①大切だと思ったことを日々心がけながら生活すること。②せっかくいろいろなことに気づくことができるのでそれを無駄にしないよう、早めに自分と向き合う（掘り起こす？）作業に取りかかること。
- 私一人がなにをしたってムダ、という無力感を捨てて、どんな小さなことでも世界につながっている、という信念（のようなもの？）を持つ。その際、自己満足に浸らないこと。
- 国際教育の実践の中で課題を提供し、みんなで話し合っていく中からどうしたらよいか見つけ出して行けるのではないかと思います。子供たちが楽しく学習し、自分の考えを自由に出せるようなワークショップの設定。

以上

## IV. 第2回 開発教育指導者研修の記録

第2回の研修の概要を示すとともに、以降、「プログラム」の流れに沿って、研修の詳細とその成果の記録を示しました。

1

### 第2回研修の概要

#### 「体験を経験に 気づきを築きにつなぐ参加型の方法論」

##### ◆ 日時・場所

- 日 時：1日目 平成15年7月5日（土）13時～18時  
2日目 平成15年7月6日（日）9時30分～12時30分
- 場 所：JICA中部 講堂

##### ◆ 参加者・ファシリテーター

- 参加者：49人（教員・教育委員会25人、NGO・NPO3人、  
自治体・国際交流協会7人、JICA関係者12人、学生・一般2人）
- ファシリテーター：NIED・国際理解教育センター 代 表 山中令子氏  
研究員 田中千賀子氏

##### ◆ ねらい

- 「豊かさ」「貧しさ」という視点から「開発」について考える 流れのあるプログラムを体験し、最終回のプログラム作りの参考にする
- 「豊かさとは」「貧しさとは」についての認識を深め、「開発」の意味を考える。貧しさを減らしていくために現在の日本社会の中で、人々が身につけたい知識、態度・価値、感情（開発すべき知識、態度・価値、感情）についてみんなで考える。

##### ◆ プログラム

###### ★セッション1：導入

- 1 前回のふりかえりと今回のねらい確認
- 2 自己紹介

###### ★セッション2：豊かさや貧しさのふりかえる流れのあるプログラム体験

- 1 アイスブレイキング：部屋の四隅
- 2 「豊かだ」「貧しい」とは？ 「豊かさ」と「貧しさ」との関係性
- 3 貧しさはどうして生まれるのだろうか？  
～ある村のコーヒー栽培テーマにしたシミュレーションゲーム～
- 4 貧しさはどうすればなくなるだろうか？ 開発の意味
- 5 日本人が今まで身につけてきたものと今後身につけたいもの
- 6 ふりかえり

###### ★セッション3：国際理解教育・開発教育の可能性

- 0 JICA TIME 「つなぐ」
- 1 前日のふりかえりと本日のねらいの確認

- 2 参加型の方法は何のため？ 参加型・講義型の比較（メリット・デメリット）
- 3 参加型の手法
- 4 国際理解教育・開発教育は、何のための教育か？

## 2 セッション1：導入

### (1) 前回のふりかえりと今回のねらい確認

#### ◆ 今回のねらい確認

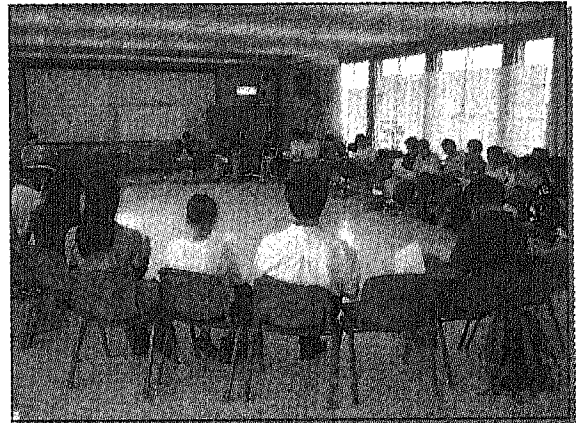
- ファシリテーター山中が、全3回6日間の指導者研修のねらいと今回流れのあるプログラム体験のねらいについて、レジュメを見ながら確認する。

#### ★ ファシリテーターより★ <主体的な参加を引き出すポイント>

- 一度自分の中で、今日来た目的・達成したいことを再確認し、参加目的に意識的になって始める。
- 互いの期待を知り、期待に応えるのは「私やあなた一人ひとりである」という自覚を持って場に関わる。

#### ◆ 前回のふりかえり

- 第1回研修の最後に各自に書いてもらった成果「望む未来を実現するために大切だと思うこと！」を、各自5分間読み、ふりかえる。



▲ 各自ふりかえる

### (2) 自己紹介

#### ◆ 簡単な自己紹介

- 今回初めての参加者もいるため、お題として、「今日の期待、今日の気分を色で表すならば、お名前、自分がしていること」を設定し、自己紹介してもらう。

#### ◆ 流れのあるプログラムを担当するファシリテーターの紹介

- 田中千賀子さん。NIED・国際理解教育センターの研究員であり、高等学校の教員。
- 現在、高校生ファシリテーターを育てるという自らの願いを実践実現中。
- 今回の流れのあるプログラムのねがいは、「誰もがもっと社会のことを考えるようになり」、「人とのつながりを大切にする」社会を作ること。より公正な社会（みんなが自分を生かして幸せに生きることのできる可能性の高い社会）を作ること。

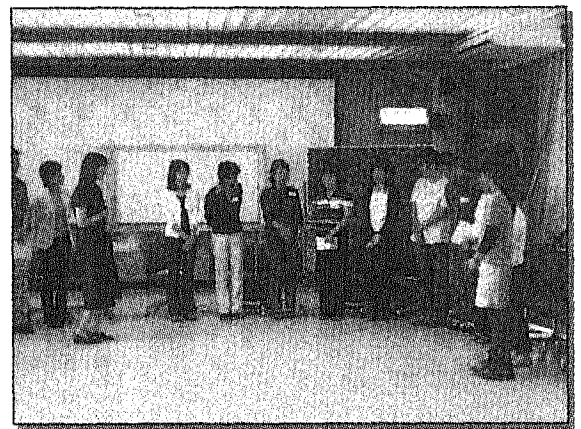
## (1) アイスブレイキング：部屋の四隅

## ◆ お題1：今日ここに来るまでの時間は？

- 「30分以内」、「30分～1時間」、「1～1.5時間」、「1.5時間以上」で部屋の四隅に分かれる。
- 「1.5時間以上」の人にどこから来たか全員に聞く（10人ぐらい）。
- 「30分以内」の人2人にもどこから来たか聞く。

## ◆ お題2：開発教育や国際理解教育にどれくらい関わっていると思うか？

- 「どっぷり」、「かなり」、「そこそこ・適当に」、「ほんの少し・これから」で部屋の四隅に分かれる。
- 「どっぷり」という人全員に、どこなことに関わっているか聞く（3人）。
- 「ほんの少し・これから」の人2人にも聞く。



▲ 部屋の四隅

## ◆ お題3：開発教育や国際理解教育は、社会をよりよく変えていくためにどれくらい力を持っていると思うか？

- 「非常にある」、「かなりある」、「少しはある」、「ない」で部屋の四隅に分かれる。
- 分かれたあと、お題2で「どっぷり関わっている」とした人に挙手してもらおう。
- お題2で「かなり関わっている」とした人に挙手してもらい、お題3で「少しはある」と答えた人に具体的にその理由を聞いてみる。
  - 個人や関心のある人には力を持つが社会まで変える力があるか疑問である。
- この意見に反論のある人に聞く。
  - やっていることには願いをもっているので、それが報われる社会であってほしい。
  - 知らない人が大勢いるので、その人たちが知ってもらえれば変わるはず。
  - ここにこれだけいけば広がっていくはず。今は主流ではなくても。

## (2) 「豊かだ」「貧しい」とは？ 「豊かさ」と「貧しさ」との関係性

## ◆ グループづくり

- 「か」「い」「は」「つ」「きよ」「う」「い」「く」と、順に言ってもらい、8つのグループに分かれる。



◆ 「豊かだ」「貧しい」とはどういうことだろう？

- グループの半分の人は、「豊かさ」と聞いて思いつくもの、自分を豊かにするもの、残りの半分の人は、「貧しさ」と聞いて思いつくもの、自分を貧しくするものを、各自でカード（付箋）に15個くらい書き出す。
- 書いた物をグループで出し合って分類する。「豊かさ」、「貧しさ」別に10個以内に分類し見だしをつけ、模造紙2枚にまとめる。
- まとめたものを基に、「豊かとは」「貧しいとは」ということが文章化してまとめる。



▲ カードに書いたものを模造紙に整理する

◆ 「豊か」「貧しい」とは？ 発表

- 「豊か」と「貧しい」、またその関係性について発表する。
- その後、また、地球上の「貧しさ」と言われて思い出されるものは？ という問に何人かの人に答えてもらう。
- なお、辞書によると、「貧しい」とは、必要なもの、ほしいものがないこと、足りないこと、欠乏していること。

<「豊か」、「貧しい」、その関係性>

- 豊かさと貧しさはほぼ対局になって出てくる。表裏一体。
- 同じ項目でも、文化の違い・視点の違い・価値観の違いなどで、同じものでも「豊かさ」に分類されることもあるし、「貧しさ」に分類されることもある。
- 「豊かさ」は心が満足すること。「貧しさ」は元気が出ないこと。
- 物質的なもの精神的なもの…豊かさと貧しさは何をもって判断するか？
- 相反するもの。
- 基本的生活に必要なものがあるかないか。
- 「当人がどう思うか」対「周囲がどう判断するか」とは同じではない。
- もの／環境／仕事／精神的／人とのつながり  
＝豊かさは経済・精神どちらも満ち足りている。
- 衣食住の不足、余裕がない、夢が持てない、危険にさらされている  
＝貧しさとは満ち足りない状態とすべてにおける悪循環。

<地球上の「貧しさ」と言われて思い出されるもの>

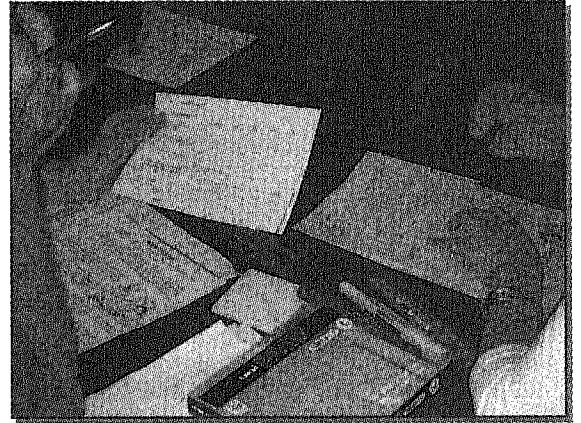
- お昼を食べることができずに、芝生の上で寝ている人たち（アフリカ）。
- 学校へ行けない子どもがいて、児童労働している（アジアの国）。
- 経済的に恵まれ権力があるが、自分と違うものを見ると直してやろうと思うこと。

**(3) 貧しさはどうして生まれるのだろう？****～ある村のコーヒー栽培テーマにしたシミュレーションゲーム～****◆ ゲームのねらい**

- 今日どちらかという貧しさに焦点を当て、地球規模で貧しさがなぜ起こるか考えるために、ある村でのコーヒー栽培をテーマにしたシミュレーションゲームをやってみる。
- そのねらいは、①貧困には様々な要因が絡んでいることを実感すること、②貧しい農民の理不尽な思いを少しでも感じることに。

**◆ ゲームの進め方（ユニセフ「開発教育」より）**

- 役割分担を決める。ほとんどの人は農民→村の名前と家の名前を決める。2人は多国籍企業の営業マン→会社の名前を決める。
- 役に応じた状況説明シートを配る。各役割間は状況を漏らさないようにする。状況説明シートに基づき「財務状況表」にそれぞれ書き込む。
- 多国籍企業の人が入ってコーヒー栽培の営業をする。農家の人はそれぞれ自分の判断で交渉や営農を行う。その後の経過は次のとおり。



▲ シートを使ってゲームをする

- ① 1年目の契約を終える→1年が経過したら、財務状況表を書き込む。
  - ② 2年目の契約を行う。
  - ③ 2年目：干ばつが起こった。コーヒー農地の方は灌漑施設があったので無事でした。作物農地は去年の半分しか収穫できなかった。
  - ④ 赤字が出た場合は農地1エーカーあたり300ネフス（現地通貨）まで無利子でお金を借りられる。契約していないとダメだけど翌年の契約をすればOK。
  - ⑤ 3年目の契約を行う。
  - ⑥ 3年目：干ばつは終わって作物農地は通常どおり収穫できた。しかし、コーヒーの方は、世界的な生産過剰のために値崩れし企業は通常受け取る金額の半分しか収入が得られず、それを理由に企業は農家に通常金額がの半分（1エーカーあたり75ネフス）しか支払わなかった。
  - ⑦ 4年目の契約を行う
  - ⑧ 4年目：世界市場のコーヒー価格が安定し、コーヒーについては企業も農家も通常どおりの収入が得られた。しかし、作物は作物農地転用過多で品不足になり作物価格が高騰して100ネフスで買った食料が200ネフスかかることになった。
- 以上の経過の結果から得られた各チームの最終的な収支（利益・貯金）をホワイトボードに書き出す。

- グループごとに、経過や結果について発表し、質問があれば答える。

#### (4) 貧しさはどうすればなくなるだろう？ 開発の意味

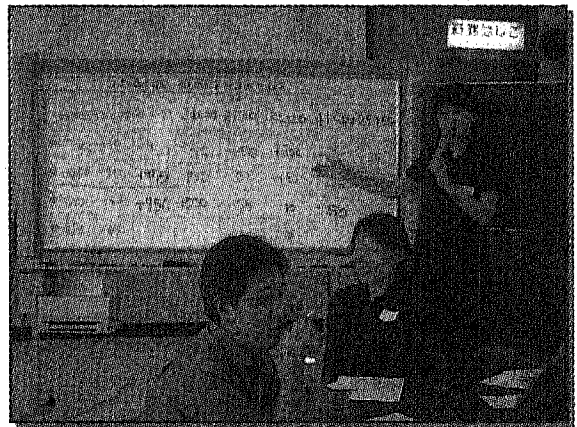
##### ◆ ゲームのふりかえりのねらい

- 貧しさにかかわる様々な要素をふまえ、どんな風に社会を変えていくべきかを考える。
- 資本主義社会では、力のあるものは損をしない構造ができていることに気づく。
- 「開発」について考える。「開発」とは「(中にある力が) 開かれ、出て行くこと」。
- development = de, envelop (封筒を開き中身を出すこと)。
- 日本も、途上国も開発が必要。日本は、精神面での開発(家になっていたものを取り戻す)必要(開発教育)。
- 以上のことを押さえつつ、ゲームのふりかえりとして、次の視点で検討する。

- ①結果に影響を与えた要素は何があったか(例: 気候, 市場)。
- ②企業と農家間の利益の差(ほとんどの会社は儲かった, 農家は損した)、会社間、農家間でも差が出た。その原因は。
- ③みんなにとってより良い状況は? あるべき姿は? その状況を作り出すために何が必要か。
- ④「開発」とはどういうことだろう。企業のやったことは開発といえるか。

##### ◆ ゲームのふりかえり・発表

- 上述の4項目について、グループごとに話し合い、模造紙に書き出して結果を発表する。



▲ ゲームの結果を説明するファシリテーター

##### <① 結果に影響を与えた要素>

干ばつ/価格の下落/識字の低さ/判断力のなさ/自然災害/投資率/企業の搾取/農民の生活には余裕や選択肢がない/変化と生活基盤を守ることのアンバランス/農民の将来への不安  
→目の前の安定又は目先の利益への欲/経験不足/教育不足/交渉力のなさ/情報の差

##### <② 企業と農家間の利益の差、会社間・農家間の差の原因>

資本力の差/仕入れ額の差/交渉力の差/農民の情報不足/判断力不足/価値観の差(企業と農民の)/自然災害/市場価格/企業の利益追求の戦略 対 農民の経験不足/農民観の協力、団結不足/情報の差/農民間の経験や勘の差/経済格差/教育の差/企業の農家への無配慮(農民を自分の利益のために利用する)

### ＜③ みんなにとってより良い状況とそのために必要なもの＞

共同協働／農家が生きるための生産性を企業側が配慮し守る意識と行動／共存共栄—両者のメリットを考える／モノカルチャーから脱する／愛と思いやり（企業優先ではなく）／利益を分かち合うことでお互いが持続できる社会／地域の資源が地域で活かされる社会



### ＜そのために必要なもの＞

情報公開／教育／農家が生きるための生産性を企業側が配慮し守る意識と行動／農家の相互扶助・組合／無償援助／国際理解教育／教育や技術協力

### ＜④ 「開発」の意味／企業のやったことは開発か＞

共存／双方にとって利益となるもの／生活がよくなるもの／自立をうながすもの／長い目で見た自立のための人材育成／自分たちで自分たちを開発していける力をつけること！／開発他者から「される」のではなく、主体者として「する」もの／開発は学びあい「豊かさ」を手にする事／自分たちで食べられ、自分たちでマネジメントできることにつながる事／「開発」というきれいな言葉の略だけではダメ

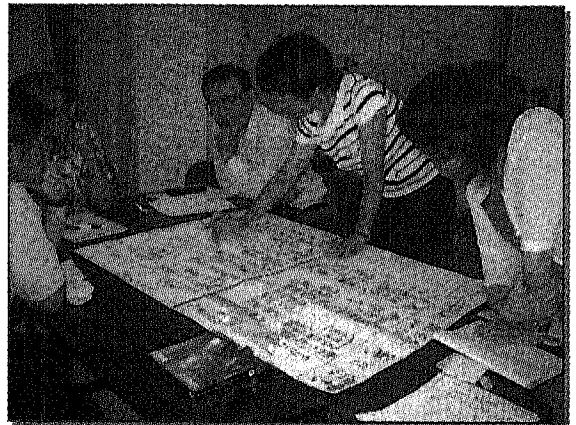
## (5) 日本人が今まで身につけてきたものと今後身につけたいもの

### ◆ ねらい

- 次のいくつかについて考える場を作りだし、共有するために、このアクティビティを行う。
  - ① 個人のことを考えすぎたから、ひずみが出ている。もっと社会のことをみんなが考えるようになるには？
  - ② 人とのつながりを大切にすることがなぜ大切か
  - ③ 感情が伴わないと価値観や態度が行動に結びつかない。感情を育てるには、体験が重要。
  - ④ 変化を作り出すためには、silent majority の価値観・態度を変えることも必要。彼らを待っているのではなく、こちらからアプローチ。学校はよいフィールド。

### ◆ 作業内容と結果

- 「豊かさ」、「貧しさ」に関して、「知識」、「価値観や態度」、「気持ち」、「その他」という視点で、「今まで身につけてきたもの」、「今後身につけたいもの」という区分で、何を(what)、どのように(how)していくとよいかを、グループで横造紙にまとめる。



▲ グループで横造紙にまとめる

<グループ1まとめ>

私・地域・日本	今まで WHAT (何を)	今まで HOW (どのように)	今後身につけたい WHAT (何を)	今後身につけたい HOW (どのように)
知識	豊かさ→善 貧しさ→悪	上からの一方的な情報・教育	精神面での豊かさも 大切/貧しさ→絶対 悪ではない ↓↑	学び合う場を多く 体験から学ぶ教育
価値観・態度	利益優先/物質面での 豊かさには偏る	高度成長/資本主義	共存 公平 情報の共有・多様性 ↑	共栄・教育 違いを認め合う コミュニケーション
気持ち	先進国: やってあげる 途上国: してもらう	お金だけ	主体性を持つ 相互扶助の気持ちで	実際に何でもやって みる教育
その他				

<グループ2まとめ>

私・地域・日本	今まで WHAT (何を)	今まで HOW (どのように)	今後身につけたい WHAT (何を)	今後身につけたい HOW (どのように)
知識	幅広い知識… 文字・計算・世界情勢・ 歴史・その他	学校教育(義務教育) 家庭教育・社会教育 情報教育	世界についての理解 異文化理解 国際交流・協調	情報・家庭・学校教育、 学校制度の改革
価値観・態度	倫理観(エチケット・ マナー)・道徳心・ 愛・思いやり	家庭教育・学校教育・ 社会教育	異文化理解(異なるもの を受け入れる) ←自国文化理解・ 自主性主体性	心の教育(道徳、総合) /家庭・地域・社会の 働きかけと連携
気持ち	愛・思いやり・ 心の充足感・真善美	家族との関わり・ 友達、周囲の人との 関わり、宗教、芸術	愛、思いやり、 柔軟な心、 豊かな感受性	芸術・文化に触れる 人との関わり 精神的支柱を育てる
その他			たくましく生きる力 がまん強く耐える力 創造性	家族、地域の関わり

IV 第2回開業教育  
指導者研修の記録

<グループ3まとめ>

私・地域・日本	今まで WHAT (何を)	今まで HOW (どのように)	今後身につけたい WHAT (何を)	今後身につけたい HOW (どのように)
知識	教科書の内容 経験に基づかない 受容的・断片的	一斉授業 受験 カリキュラム 詰め込み 暗記	経験に基づく事 なぜ・どのように のプロセス	記述式・体験型・ 参加型・情報の選択・ 自己決定
価値観・態度	お金がある・財産・ 社会的地位・学歴・ 勤勉は必要なもの	他者基準・ みんなそうしている (全体主義)・競争	自分の考え・意志を持 つ、共生共存・多様性	自己基準 (自分勝手ではない)
気持ち	欧米主義(あこがれ)	コピー(まね) メディアの影響	地球規模	オリジナル
その他	大量生産、ベルトコン ベア、心の貧しさ		再発見、再認識・ 循環・心の豊かさ	← →

## &lt;グループ4まとめ&gt;

私・地域・日本	今まで WHAT (何を)	今まで HOW (どのように)	今後身につけたい WHAT (何を)	今後身につけたい HOW (どのように)
知識	途上国の貧困の現状＝ ステレオタイプの断片 的な知識 欧米はリッチ	本、マスメディア、 テレビ、学校教育	いろいろな知識 の吸収	実体験学習 多くの情報源 (本・人など) 教育の場
価値観・態度	お金＝豊かさ＝地位 お金もうけ主義(利益 追求)、貯金に走る	社会(大人・親など) マスメディア(大企業 倫理)、学歴信仰	多様性・共生 (違いを認める)・ 積極性	社会、地域 学校、家庭
気持ち	ラクしたい・ お金持ちになりたい 豊かさ＝安定志向	体験から 現実から	相手を尊重する 気持ち・表現する力	コミュニケーション 人とふれあう ↓
その他			皆の幸せ・皆で幸せ	↓

## &lt;グループ5まとめ&gt;

私・地域・日本	今まで WHAT (何を)	今まで HOW (どのように)	今後身につけたい WHAT (何を)	今後身につけたい HOW (どのように)
知識	科学技術・歴史など 社会・受験用、芸術	学校教育・メディア・ 塾・家庭・地域	人間に関する知識・ 自然環境	心の教育・家庭教育・ 地域、行政、企業が 主体的に協力
価値観・態度	自分のための向上心	競争・比較して	他人を思いやる態度	共生・協調・人と交わり 視野を広げる
気持ち	充足感・見栄	横並び意識	心の豊かさ・自分も 人も大切	人との関わり・共存
その他	日本の発展		世界全体の発展	一人、一国ではない 認識 対話

## &lt;グループ6まとめ&gt;

私・地域・日本	今まで WHAT (何を)	今まで HOW (どのように)	今後身につけたい WHAT (何を)	今後身につけたい HOW (どのように)
知識	学校教育・家庭教育 ・地域社会教育	画一的教育による 教え込み・親の姿勢	地域教育(地域の子ど も)、生涯学習、 心の教育	人と人とのつながり、 異世帯(異文化)との 関わり、主体的
価値観・態度	物質的な豊かさ・ 競争に勝つ・利己主義	画一	精神的な豊かさ・ 広い視野・思いやり・ ボランティア参加	多様
気持ち	他人と比較して自分を 判断する		信念を持つ・広い視野 で自ら判断する	人とのコミュニケー ション、多様に
その他	会社人間・父親不在		安心して子どもが 生める環境	

<グループ7まとめ>

私・地域・日本	今まで WHAT (何を)	今まで HOW (どのように)	今後身につけたい WHAT (何を)	今後身につけたい HOW (どのように)
知識	法律・行政・芸術	学校勉強・メディア	普遍的なもの・世界	開発教育
価値観・態度	利便性・必要な人になる・高価な物はよい・欧米偏重	競争社会	異質・異文化を認める ／協力・共生／自信	開発教育
気持ち	物欲・感動・画一化・安心と不安	大量生産大量消費の社会の中で／村社会	おもいやり・喜び・主張・ゆっくり	開発教育
その他	物質的な豊かさ	経済的発展	精神的な豊かさ	開発教育

<グループ8まとめ>

私・地域・日本	今まで WHAT (何を)	今まで HOW (どのように)	今後身につけたい WHAT (何を)	今後身につけたい HOW (どのように)
知識	学校教育	教育現場から	教科書に載っていないこと	地域社会・生活から
価値観・態度	団体やルールの重視	日本の社会	個人の尊重・個性の尊重・多様性を認める	色々な人との関わりの中で
気持ち	貧しい=貧乏 貧しい=悪い	日本の社会・学校・家庭	心の豊かさ・自分を肯定	他人との人間関係
その他				

(6) ふりかえり

◆ まとめ ～今日のワークショップの感想～

- 1日目の最後のまとめとして、参加者から今日のワークショップの感想を聞く。

- こういうワークショップに参加して、自分の変化。1回目は正解を言おうとか、より良い意見を言おうという感覚があったが、2回目以降はとてもしラックスして、賛同されない意見でも仲間として考えることができるようになった。
- 参加すればするほど育ってくる会だと思っているが、明日は欠席するので差がつけられる(笑)。こんな難しいことを文章化することは大変だなとおもったが、みんなで考えるといろいろ出てくると実感した。
- 今日シミュレーションでの気づき。ときには博打も大切ということ。